

青梅市文化財ニュース

第235号

平成19年5月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859）

タカハヤ

水温^{ぬる}む季節となりました。多摩川の水辺にも小さな魚が見られます。私が子供の頃（昭和40年代）は、父と手拭いでこの小さな魚を^{すく}って遊びました。当時は、この小さな魚をメダカと呼び、^{こざかな}抄っていましたが、育ててみるとウグイ（ハヤ）の仔魚でした。

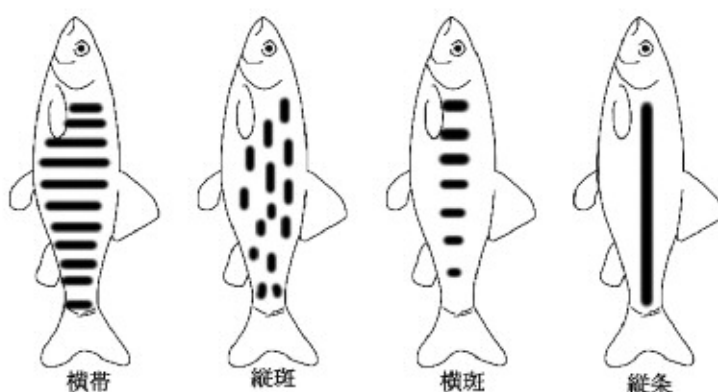
近年、この仔魚の魚類相が変わりました。タカハヤが多く含まれウグイが減っています。市民球技場（河辺グラウンド）付近では、オイカワ（ヤマベ）やカワムツも増えています。

タカハヤは、コイ科ウグイ亜科アブラハヤ属の魚で、太平洋側では、静岡県以西に分布する魚です。琵琶湖産アユの放流に混ざって移入したものと思われ、在来種であるアブラハヤと酷似するため、その存在が知られておりません。東京都内では、現在アブラハヤは激減してしまっており、アブラハヤと呼ばれるもののほとんどはタカハヤであります。

大きさは5～12 cmほどで、ウロコは小さく、体表はヌルヌルしています。アブラハヤは、体側中央に黒い縦条模様（図〔斑紋の呼び方〕参照）が走るのに対し、タカハヤは背側から腹部まで小さい暗色斑点が広く散在し、縦条は不明瞭のものが多いです。また、タカハヤのほうが尾柄（尾ビレの基部）が太いこと、ウロコがやや大きいことなどでアブラハヤと見分けます。

生息場所は、アブラハヤ同様、上流域から中流域、山間部の湖沼などで、比較的水の冷たい場所を好みます。ヤマメ生息場所の下流域では混生し、支流や細流の渾みや淀みなど、流れの緩やかな所に多く、石の下などに隠れる性質が強く見受けられます。アブラハヤと共存する場合には、上流側にタカハヤが生息します。

産卵期は晩春から初夏にかけて昼間に1尾の雌に対し、多数の雄



〔斑紋の呼び方〕

〔注〕

（裏面に続く）

が集まって砂礫内に産卵します。その時砂礫内に埋め込まれなかった卵は自ら食べてしまいます。雑食で底生生物、浮遊流下物を食べます。とても釣りやすい魚ですが、美味ではないので、あまり食用にされません。

現在、多摩川は10年程前より、アユの冷水病からの在来種への感染やカワウ被害、環境汚染などにより魚類が大変減少しています。特にウグイ、アブラハヤは激減しています。その様な被害の無い支流で春に産卵、^{ふか}孵化したタカハヤの仔魚の一部が流れ下り、多摩川本流の水辺で見かけられるのです。

〔※注〕 魚も人間と同じように頭を上、尾ビレを下にして模様の縦横を言う。

〔参考文献〕 日本の淡水魚（山と溪谷社）

フィールド図鑑 淡水魚（東海大学出版会）

（文責 大久保 芳木）



タカハヤ